



スプレッドと ENEOS グループの「Jリーフ」によるパートナーシップ展開 自動化植物工場「テクノファーム成田」 操業開始

2021 年 7 月 1 日

株式会社スプレッド（本社：京都市下京区、代表取締役社長：稲田 信二、以下「スプレッド」）がパートナーシップを結ぶ ENEOS グループの「Jリーフ」株式会社（本社：千葉県芝山町、代表取締役社長：上原 淳、以下「Jリーフ」）は、6 月 30 日（水）に自動化植物工場「テクノファーム成田」（千葉県芝山町）の操業を開始しました。

テクノファーム成田は、スプレッドが開発した次世代型農業生産システム『Techno Farm™』を導入した大規模自動化植物工場で、スプレッドのパートナーシップ展開として初めての工場となります。マザー工場の「テクノファームけいはんな」（京都府木津川市）で蓄積したノウハウを活用し、さらなる持続可能性を追求しました。最大の特徴としては、テクノファームけいはんなの 2 倍となる 28 段の栽培棚を実装し、高効率の土地活用を実現しました。

テクノファーム成田の特徴

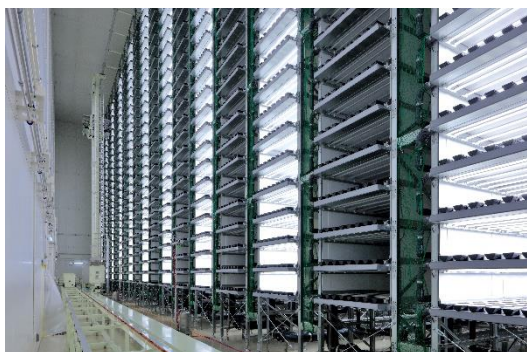
- ・ 28 段の栽培棚による土地の活用（テクノファームけいはんなの段数の 2 倍）
- ・ 消費地である関東圏に立地し、効率的な配送が可能
- ・ 日産 3 万株のレタスを生産
- ・ ENEOS グループ遊休地の有効活用
- ・ 太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを活用

Techno Farm™ の特徴

- ・ 自動化栽培による省人化、衛生品質の向上、作業の標準化が可能
- ・ 独自開発の植物工場専用 LED 照明による消費電力の削減
- ・ IoT を活用した「テクノファームクラウド」で栽培管理を効率化
- ・ 農薬を使用しない栽培による、土壌や河川、大気の保全に貢献

スプレッドは、2030 年に国内で日産 100 トンの生産体制の構築を掲げ、次世代型農業生産システム『Techno Farm™』の展開を進めています。今回のパートナーシップを機に、両社間ではさらなる事業拡大に取り組むことを検討していく予定です。スプレッドはグリーンビジネスの市場拡大を見据え、植物工場のリーディングカンパニーを目指します。

今後もアグリテック分野の技術革新を通して、世界が抱える気候変動や食料安全保障の課題に対してソリューションを提供していき、持続可能な社会の実現と SDGs の達成に貢献していきます。



テクノファーム成田 栽培室



操業開始式の様子

テクノファーム成田の概要

所在地	千葉県山武郡芝山町小池 2700 番 72 (ENEOS テクノマテリアル成田工場敷地内)
工場タイプ	人工光型植物工場
敷地面積	約 8,000 m ²
生産品目	レタスなど葉菜類
生産能力	3 万株/日 1,095 万株/年
操業開始時期	2021 年 6 月 30 日

Jリーフ株式会社 会社概要

代表取締役社長 : 上原 淳
設立年月 : 2018 年 7 月
資本金 : 8,000 万円
所在地 : 千葉県山武郡芝山町小池 2700 番 72
(ENEOS テクノマテリアル成田工場敷地内)
事業内容 : 人工光型植物工場における野菜生産・販売
出資比率 : ENEOS テクノマテリアル株式会社 68%、日新商事株式会社 32%

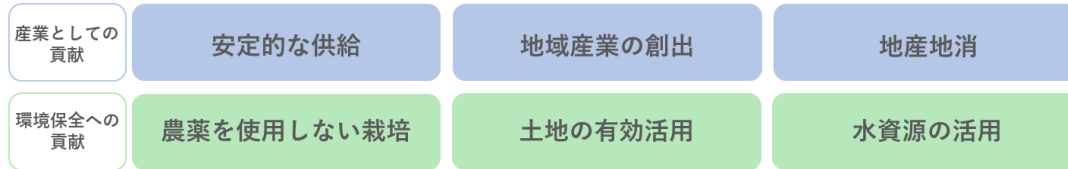
株式会社スプレッド 会社概要

代表取締役社長 : 稲田 信二
設立年月 : 2006 年 1 月
資本金 : 8,740 万円
所在地 : 京都府京都市下京区中堂寺栗田町 90 番地 KRP8 号館
事業内容 : 植物工場事業の運営・販売

【APPENDIX】

植物工場の社会的役割

気候に左右されることなく、どこでも誰でも安定的に生産ができ、かつ環境への負担が少ない持続可能でレジリエントな農業として期待されています。



日産 2 万 1 千株 世界に先駆けて黒字化を達成 亀岡プラント

2007 年より稼働。6 年の試行錯誤を経て、栽培に最適な環境制御技術の確立や、効率的なオペレーション構築によって、97%を超える高稼働率を実現し、大規模植物工場では困難と言われた黒字化を達成。熟練したスタッフによる大規模栽培技術の実験・検証の場としての機能も持ち、スプレッドの精度の高い生産を支えています。



日産 3 万株 革新技術で栽培安定化を実現 テクノファームけいはんな

2018 年より稼働。次世代型農業生産システム『Techno Farm™』を導入した初の工場。併設の研究開発施設での栽培技術や、IoT・AI 技術も開発。マザー工場として新規技術の実証と開発を行い、未来に向けてさらなる進化を続けています。2020 年には稼働率 99%に到達。

【生産性向上と環境負荷軽減を両立した革新技術】

- ・栽培工程の約 7 割を自動化
- ・水のリサイクル技術で 1 日約 16,000 リットルを節水
- ・高度な環境制御技術
- ・植物工場専用 LED 照明による省電力化
- ・IoT を活用した栽培管理システムによる業務効率化



次世代型農業生産システム Techno Farm™

スプレッドが亀岡プラントで培った 10 余年のノウハウを基に、各分野のパートナーと共同で開発しました。自動化栽培、水のリサイクル技術、環境制御技術、植物工場専用 LED 照明、IoT・AI 技術などを導入。未来の食料生産に必要不可欠な技術として持続可能な農業を推進していきます。

URL : www.technofarm.com

Techno Farm™



累計 7,000 万食超を販売 ※1 植物工場野菜ブランド ベジタス

「サステナブルなベジタブル」をコンセプトに、食べるだけで地球や人が健やかになる野菜を目指しています。ラインアップはフリルレタス、プリーツレタス、フリンジレタスの3種類。それぞれシャキシャキ、ふんわり、ふわシャキといった個性あふれる食感と、甘味と旨味が広がる味わいです。お子様も喜んで食べていただける緑黄色野菜 ※2 として支持されています。サラダはもちろん、サンドイッチ、さらにスープなどの加熱料理でも引き立つおいしさです。 URL：www.vege-tus.com

ベジタス



SDGs への貢献



スプレッドは、2030 年の SDGs の達成に向けて、以下のように取り組んでいます。

目標 2 飢餓をゼロに：持続可能な食料生産の推進

目標 3 すべての人に健康と福祉を：徹底した衛生管理による食中毒リスクの軽減

目標 8 働きがいも経済成長も：自動化、DX 化の推進による労働負荷の軽減

目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：IT を活用した効率的な栽培管理

目標 12 つくる責任 つかう責任：生産物の捨てる部分が少ないことによるフードロスの抑制

目標 13 気候変動に具体的な対策を：レジリエントな農業の推進

目標 15 緑の豊かさを守ろう：土地の有効活用、栽培期間中農薬不使用

目標 17 パートナリシップで目標を達成しよう：『Techno Farm™』のパートナーシップ展開

※1 スプレッドで生産し販売したレタスの実績

※2 ベジタスは緑黄色野菜の基準（β-カロテンの含量 600 μg/100g 以上）をクリア

【本リリースに関する問い合わせ】

アースサイドグループ 広報部

E-mail：info@earthside.com

TEL：050-3852-0561（直通） 075-316-6020（代表）

URL：www.spread.co.jp